

# 千葉県建築文化賞

## 第16回表彰作品集



2009年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

第16回千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募いただき、誠にありがとうございました。

今回は68点の応募がありましたが、いずれも千葉県の建築文化の高い水準を示す素晴らしい作品でした。

その中から、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞4点が選定されました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されたものです。

現在、応募作品は累計1,347点にも及び、県民の居住環境や街づくりに関する意識を高め、人に優しく美しい街づくりに大きく寄与しております。

県では、本年4月から、「暮らし満足度日本一」を基本理念に掲げた総合計画「輝け!ちば元気プラン」がスタートします。この計画は、私たちが直面する様々な課題を乗り越え、光り輝く千葉を築いて次世代に確実に引き継いでいこうとするものです。

こうした中で、優れた建築物は、潤いや安らぎに満ちた美しい街並みを実現するとともに、千葉県の魅力を高め、観光など地域の活性化にも大きく貢献しています。

また、高齢者や障害者など誰もが利用しやすい建築物や、環境への負荷軽減を図った建築物は、生活文化の新しいモデルとなり得るものと期待されているところです。

県としましては、今後とも、優れた建築物を表彰する本制度を通じ、美しく快適な街づくりを進めてまいりますので、引き続き、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝申し上げますとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

## 目 次

千葉県建築文化賞について	1	大多喜町街なみ環境整備事業景観形成地区	7
第16回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	長南町立長南中学校	7
回向院市川別院	3	Care House INO(けあ はうす いの)	8
音楽ホールのある家	4	House in Sakura(はうす いん さくら)	8
産経新聞印刷千鳥センター	5	千葉県建築文化賞の選考の実績と基準	9
神田外語大学7号館	6	受賞作品の位置	10

# 第16回千葉県建築文化賞選考経過と総評

## 応募68点から8点入賞

### (選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第16回千葉県建築文化賞は平成21年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数68点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より11点増加し、過去2年間一桁台だったユニバーサルデザイン部門の応募も12件に回復した。きびしい経済情勢を反映して大規模な作品は少ないが、中小規模の作品は今回も質の高いものがそろっていた。千葉県における建築文化の水準を守り育てている関係者の努力に敬意を表したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門4点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞4点を表彰候補作品として決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		38	4	2	2
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		12	3	1	1
環境に配慮した建築物		18	3	1	1
合計		68	10	4	4

### (総評)

#### 景観上優れた建築物

景観部門への応募は38点で、その内1件が継続活動によって景観の維持・向上を実現している建築物群であった。選考にあたっては両者を区別せず、魅力ある景観形成と地域の景観向上への寄与の観点から総合的に評価した。その結果、建築文化賞2点、奨励賞2点を選定した。

建築文化賞の「回向院市川別院」は、コンクリート造を木造屋根で覆う混構造の建物であり、近隣環境に配慮しつつ、国府台の緑豊かな環境に溶け込む端正なデザインが高く評価された。

「音楽ホールのある家」は、公園に臨む立地を考慮し、大きな勾配屋根によって、緑の環境との調和を図りつつ景観を引き締めている。また、住宅地側では木の壁で柔らかな表情をつくり、公園の緑との視覚的連続性に配慮している。

奨励賞の「大多喜町街並み環境整備事業景観形成地区」は、城下町の街並み再現を目指し、平成10年から建築物や屋外広告物の修理・修景に取り組んできた実績が評価され、「長南町立長南中学校」は、地域の原風景を保ちつつ、新たなシンボルとなる教室棟と体育館を付加した計画が評価された。

#### ユニバーサルデザインに配慮した建築物

この部門への応募は12点であり、昨年の4点を大きく上回った。医療・福祉関係の施設だけでなく、工場、住宅など、幅広い用途の建築物に佳品が見られた。

建築文化賞の「産経新聞印刷千鳥センター」は、従業員にも見学者にも利用しやすい快適な環境を実現すると同時に、巨大な工場を3つに分節し、圧迫感の少ないすっきりしたデザインを実現している。

奨励賞の「Care House INO(けあ はうす いの)」は、車椅子の高齢者と三世代の家族に、自立しつつ緊密なコミュニケーションをとって暮らす場を提供している。

#### 環境に配慮した建築物

この部門への応募は18点であり、今回も幅広い用途の建築物において環境への興味深い配慮が見られた。

建築文化賞の「神田外語大学7号館」は、屋上緑化、ガラスコーンからの自然換気、氷蓄熱による床吹出し空調などを採用するとともに、高速道路に面する南と西の壁面にL字形に設備コアを配してエネルギー損失を抑えている。

奨励賞の「House in Sakura(はうす いん さくら)」は、長方形の筒型ボックスをずらしながら細長く連ねて自然通風を図り、蓄熱式床暖房と併せてエアコンに頼らない住環境を目指した野心的な住宅である。

# 建築文化賞

景観上優れた建築物

建築主：宗教法人回向院  
設計：河原泰建築研究室  
施工：松井建設株式会社  
所在地：市川市国府台5-26-12

自然、伝統、そして近代との融合

## 回向院市川別院



コンクリートの本堂を木造建築でくるんだ外観

近年の都市部では、寺社建築の多くは防災上コンクリート建てが必要となり、それを機会に近代建築に様変わりして、伝統の建築様式にもさまざまな変化が試みられている。

スイスのロンシャンに建つコルビジェ設計の小教会や、丹下健三設計の東京カテドラル、いずれも近代建築の代表作だが、西欧の石造りと異なり、日本の寺社建築は木造が伝統で、近代建築の冒険をして成功した例は限られる。

恵まれた郊外の緑景に建つ回向院市川別院の改築に、設計者は耐震や蓄熱も配慮したコンクリート造をすっぽり木造でくるむ手法に挑み、外観の自然と伝統の調和を図る一方、本堂内の祭壇の演出は巧みで現代的空間創出を成功させている。

寺とは葬送以外に日常的に出会う習慣が薄れる昨今である。そして、本堂は座式から椅子席に、会葬の効率など現実的課題もあるが、祭壇の定法遵守に加える新たな折り空間の成功は、宗派を超える宗教建築の刺激となろう。

寺はかつて地域の文化拠点であり、イベント拠点であった。茶の湯や和歌俳諧を介しての社交の場であり、子どもの学習にあたる寺子屋として親しまれた。

近頃、京都や奈良の名刹を会場に、大規模な前衛音楽や演劇の試みが増えたが、この良質なモダンデザインの新たな宗教建築を受け入れた寺に似つかわしい現代版文化拠点としての再生も期待したい。

(野口瑠璃)



地域に開放される庭園より見る



本堂内部

(撮影/SS東京・走出直道)

建築主：松岡氏  
 設計：龍口元哉建築設計事務所  
 施工：株式会社大畑工務店  
 所在地：鎌ヶ谷市初富本町

公園の緑と一体になった大屋根の住宅

## 音楽ホールのある家



東側アプローチからの外観夜景※

敷地は、私鉄駅から約500mの閑静な住宅地の一角を占め、西に公園を見下ろす斜面の上に位置している。

建物は、名前が示すとおり音楽を楽しむためのスペースを併設した住宅であり、北西に2層吹き抜けの音楽ホールを置き、その東と南を平屋の居住スペースで取り囲む構成をとっている。

音楽ホールは、敷地の形状に従って2段のステップで床を下げ、横長に開いた開口部から公園の緑をたっぷり取り込んでいる。ホールの段差とそれに面する和室、ロフトはコンサート時の客席になり、聴衆は演奏とともに公園の借景を楽しむことができる。

しかし、この住宅の真骨頂は、周辺の景観に配慮し、その質を高めるデザインにある。音楽ホールを覆う大屋根は、斜面に合わせた勾



公園からの遠景

配でボリュームを抑えており、公園から見上げると、斜面の緑と一体になりながらスカイラインを引き締める役割を果たしている。

一方、東側は防音のため閉鎖的な壁面になっているが、粗い仕上げの板壁とし、エントランス、平屋、大屋根の底で水平ラインを強調することによって、落ち着いた温かみのある表情を醸し出している。また、建物を道路から約6m後退して配置することで、近隣への圧迫感を抑えるとともに、公園の緑が住宅地へと視覚的に連続するように配慮している。

(北原理雄)



公園側に開かれた音楽ホール※

(※撮影／村角創一)

# 建築文化賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

社会財としての生産環境

## 産経新聞印刷千鳥センター

建築主：株式会社産業経済新聞社

設計：株式会社サンケイビルテクノ

設計：鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施工：鹿島建設（株）東京建築支店

所在地：浦安市千鳥9番地4



周辺環境に配慮し3つのボリュームに分節した外観

新しいタイプのユニバーサルデザインである。新聞の印刷工場という情報化社会においてなおアナログな部分を引き受けながら、徹底して自動化された空間であった。巨大なロール紙の上に想像を絶する高速度で文字が、図版が、写真が印されていく。そして奔流のごとく新聞が上下左右へと流れて、配送トラックに積まれてゆく。このプロセスを支える勤勉なロボット達は、ひたすら無言でインプットされた作業をこなしていく。

そうした情報生産設備のメカニズムは、いつしか私たちの社会の縮図を見ているような気分させる。だから、働く人々にとっても、社会見学に訪れることもたちにとっても、ここは単なる生産の場ではない。

本施設では、そうした営みの入れ物である建築物の内外から、その存在をグラフィックに情報発信することが戦略的に意図されている。大小のピクトグラムや色彩計画が巧みにデザインされ、上空を飛ぶ飛行機からの目線まで意識したその意図は尋常ではない。その結果、どこにいても海辺の明るく楽しい気持ちと隣り合

せになれる、そんな生産労働環境が実現した。従来のバリアフリーの手法から止揚されたユニバーサルデザインには、機能的要求に対処するだけでなく、社会財としての建築環境が具備すべき「美しさの質」が今問われているのである。ここに優れた一つの答えを見た。

どこにいてもかすかに香るインクの臭いは、ここが印刷工場であることを思い出させる。そして、ロボット化によって根底から変質した仕事の質と量が、これまでの職人的技術をどのように継承し、あるいは発展させていけるのだろうかという問いも頭をよぎるのであった。

(岩村和夫)



4色インクと海をモチーフにしたエントランスホール



袖色・葉色の2色に明るく彩られた生産ライン  
(撮影/SS東京・島尾望)

建築主：学校法人佐野学園  
 設計：株式会社松田平田設計  
 施工：大成建設株式会社千葉支店  
 所在地：千葉市美浜区若葉1-4-1

大地から迫り上がる国際交流環境

## 神田外語大学 7号館



キャンパスと一体となった緑の丘

高速道路(東関東自動車道)とその緩衝樹林帯に沿う、大学キャンパスのオープンスペースの一角に本施設は立地している。平坦なラグビー場やその周辺の芝地が徐々に迫り上がるように緑化されたのびやかな屋上が、学生達に解放されている。一方、大学の主要施設側に向けた主入り口は、湾曲したガラス張りの立面で人々を向え入れる。円錐と円筒状の二つのタワーは、対峙しながら水平線を破り、垂直動線のありかを顕示している。その佇まいがすでに「環境に配慮した」意図を十分に感じさせるものだ。内部には国際色豊かな大学を象徴するエスニックな展示・体験・交流空間と、おしゃれな学食、図書館、セミナールーム等が有機的に同居している。

技術的には必ずしも目の覚めるような先端性を具備しているわけではない。屋上緑化、水蓄熱、床吹き出し空調、クールチューブ、段ボールダクト等、日本では既になじみのアイテムである。むしろ注目したいのは、高速道路側にL字状に配置された設備機械室である。



学生が自由に利用出来る緑の丘

暗騒音や熱負荷への対策の観点から、非空調スペースが外部と居室との間の緩衝空間として巧みに機能していると思われる。こうした建築的取り組みが、発注者側の明確なプログラムやイメージにうまく折り合ったことに本施設の魅力の理由が発見できる。

ただし、こうした環境に配慮した事項にもその客観的なエビデンスが求められる。そんな趨勢にあって、今後ぜひ期待したいのは、事後評価の仕組みと運営管理、そして情報発信である。そして、大学という教育機関にあって教職員と学生が共に参加しながら、ここで実現した数々の取り組みの効果に関する持続的な検証を望みたい。(岩村和夫)



魅力的な学習環境のラーニング・commons

(撮影/川澄建築写真事務所)

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

どこか郷愁を感じる親しみのもてるまちづくり

# 大多喜町街なみ環境整備事業景観形成地区

最近、まちづくり、景観などの言語をよく耳にするようになった。住民団体の「房総の小江戸大多喜をつくる会」は平成12年より大多喜町と共に「街なみ環境整備事業」に取り組み10年になる。

大多喜町は歴史的に、徳川四天王の一人と言われる徳川家康の重臣、本多忠勝によって築城された大多喜城の城下町である。市街地の県道、町道に面して歴史的な建造物が多く残されており、江戸時代の城下町のイメージが景観として残っている。環境整備事業として取り組んだ修理、修景事業は、構法、高さ、屋根、軒庇、窓、外壁、色彩、外観の建具、看板等を「まちづくり協定」で規制するもので城下町としての景観を残すための整備事業である。街並みの修景も進み、シンボルである大多喜城の見学と共に観光で訪れる人も増えている。

近年、観光客の形態も団体の大型バスから、小人数の家族旅行に変化しており、宿泊施設や駐車場、飲食施設、トイレ、案内看板等の整備が必要になるだろう。当初計画の「街なみ環境整備事業」は10年で一区切りであるが、まだ完成とは言えない。今後は地域の建築士と住民団体が中心となり、事業の継続が必要である。

第三セクターのレトロな「いすみ鉄道」の再生と大多喜町の観光は一体の関係にあり、土産品の開発、販売も一定の成果はあるが、今後の10年が事業の正念場となる。

(青柳英俊)



大多喜の街並み



商い資料館

(撮影/鈴木博好)

7

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

一部を建て替えて記憶を受け継ぐ

# 長南町立長南中学校

房総半島の真ん中に位置する人口1万人足らずの長南町唯一の中学校の部分的な建替えである。管理特別教室棟と武道館を残し、1987年の震災で被害の大きかった普通教室棟と体育館を建て替えている。

特注のケーブルラックを天井仕上げに代え、バルコニー手すりにも利用するなどして、維持管理面からの要求をデザインの個性に生かしている。また、体育館の架構では、スチールフラットバーを集成材でサンドイッチすることで鉄と木が相互補完する構造体を試みている。

建て替えられた教室棟と体育館のいずれでも赤レンガタイル貼りが外観を印象づけているが、これは以前から建っている管理棟のレンガ貼りを受け継いでいる。また普通教室棟の南側のバルコニーも、取り壊された旧校舎が南廊下タイプであった記憶を継承している。このように、それまでの学校の空間的記憶の文脈に配慮していいいにデザインされている点を評価したい。

全国どこでも同じ標準設計だった学校建築で、建替えが増えつつある。同中学校も例外ではないが、規模縮小下で改築や建替えは難しい。多様な使われ方を想定した改築が今後増えるであろうことを予感させられた。

(岡部明子)

(撮影/岡田写真事務所 岡田泰治)

建築主：長南町

設計：株式会社榎本建築設計事務所

施工：西松片岡特定建設工事共同企業体

所在地：長生郡長南町長南2060



メインアプローチからの南側外観



アリーナ内観

スチールと千葉県産材の集成材によるハイブリット工法の屋根架構



建築主：K氏  
設計：有限会社翔建築設計  
施工：株式会社尾嶋建設  
所在地：佐倉市井野

## 建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

4世代・10人の家族が賑やかに暮す家

# Care House INO (けあはうすいの)

新しい街づくりが始まったばかりの分譲地の中に建てられたINOの家(K邸)は、広々とした畑の中に、ひととき目立つ真っ白い外観、周囲に向けては、やや閉鎖的な感のある住宅である。

敷地面積328.99、延べ床面積209.49、木造2階建。現役真っ盛りのご夫妻が、車いす利用の母親の暮らしを考えて、両親とともに在宅で充実した暮らしを継続したいと、設計者と共に計画されたという。

玄関、中庭を挟んで左手一階の居間・食事室を中心に、右手の平屋部分を両親の生活空間、2階に夫妻の寝室と多目的空間を配置している。

一階部分は、引き戸を開放すると、中庭も含めて連続性のある快適な大空間に。どこにいても互いの気配を感じ取ることが出来るだろう。設計は母親の将来の車いす利用を考慮した暮らしをみんなで支えていこう、という配慮が感じられる。

両親の生活空間部は、段差の解消・斜路・引き戸・手すり等一応の必要条件是満たしているが、住宅全体としては、ユニバーサルデザインへの配慮に欠けるのでは、との意見があった。

しかし、住まい手の家族がこの家を大変気に入って、多世代で賑やかに暮していること。どんな状況の変化にもたくましく対応しながら、心地よい暮らしを創っていこうというパワーに感動して、奨励賞とした。(夏目幸子)



西側外観スロープからアプローチの中の玄関へ



親・子世帯をつなぐ中庭 正面は浴室 (撮影/中川敦玲)

建築主：RY氏  
設計：山崎健太郎  
施工：阿部建設株式会社  
所在地：佐倉市江原新田

## 建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

魅力あるシンプルライフの実現

# House in Sakura (はうすいんさくら)

住宅だが収納庫がない。間仕切り戸もない。定住にはいささか不自由もありそうだし、外観からは期間滞在型の週末ハウスやアトリエなどが想像される。

住人は庭続きに息子一家の住宅もある両親。不必要な家財をすべて切り捨て、シンプルライフを存分に楽しめる贅沢な暮らしの空間を実現させた。

玄関は設けなかったという庭からの出入り口は、接客、仕事場などを兼ねたゆとりのある広縁に例えられる。その先にキッチン、ダイニング兼リビング、寝室、浴室、さらに南面して緑景を遠望する多目的空間まで27m。

それぞれの空間である箱型をずらして交互につなげて細長く続く。東側には、手入れが行き届いた趣味のいいガーデニングが整えられており、室内からガラス越しに眺めの変化が楽しめる。

エアコンに頼らず、夏はこの細長い住居を貫通する南北の通風と、冬は45センチメートルもある厚いコンクリート床の蓄熱で暖房効果を図ってエコライフを徹底させた。

暮らしのイメージを卒直に実現した設計は、施主と設計者が十分な対話を楽しんだことを想像させる魅力ある空間の実験住宅を生み出した。

(野口瑠璃)



建物外観



建物内部から見た風景

(撮影/黒住建築写真事務所)

## 千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞				建築文化奨励賞
			景観上優れた	ユニバーサルデザインに配慮	環境に配慮	計	
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
13	H18	71	3	0	1	4	4
14	H19	53	1	1	1	3	5
15	H20	57	3	1	1	5	1
16	H21	68	2	1	1	4	4
1～16	計	1,347	40	23	17	80	49

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。

※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。

※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設。（第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」）

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、80の建築物が建築文化賞を受賞され、それぞれの地域に根付いています。

第17回の作品募集は、平成22年夏ごろに行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

9

### 選考の基準

- 千葉県内において完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物（群）で、この表彰趣旨に沿っているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
  - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物（群）と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
  - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により上記①の維持向上がなされているもの。
  - ③誰もが安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常の生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
  - ④エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

### 千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・千葉県医療技術大学校講師

委員 野口 瑠璃：工業・環境デザイナー

【敬称略 委員は五十音順】

第16回千葉県建築文化賞にご応募いただきました皆様には厚くお礼申し上げます。応募総数68点の中から4点が千葉県建築文化賞、4点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて、優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますのご活躍を期待しております。

（千葉県建築文化賞選考委員会事務局）

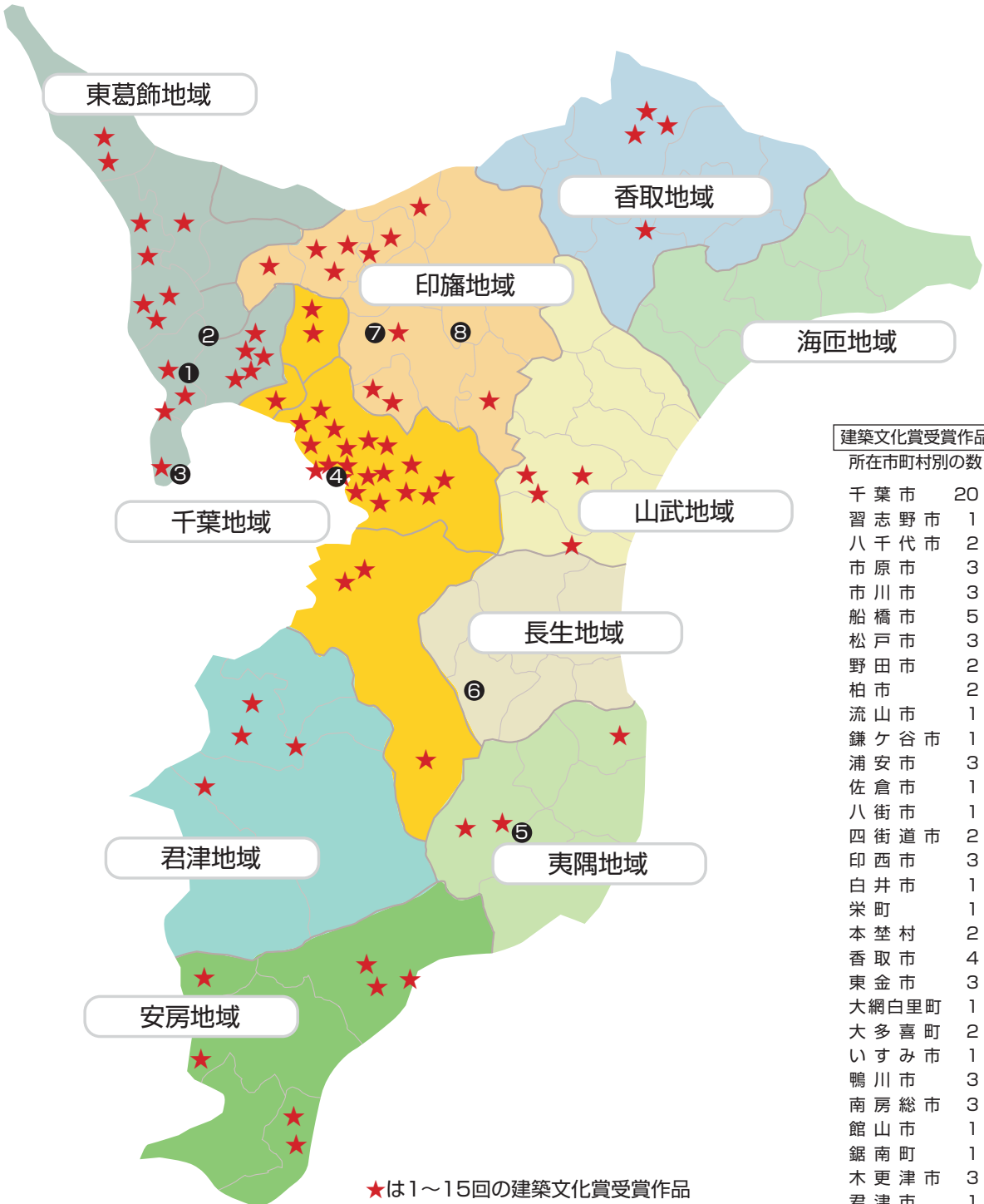
# 受賞作品の位置

## 第16回千葉県建築文化賞

- ① 回向院市川別院
- ② 音楽ホールのある家
- ③ 産経新聞印刷千鳥センター
- ④ 神田外語大学7号館

## 第16回千葉県建築文化奨励賞

- ⑤ 大多喜町街なみ環境整備事業景観形成地区
- ⑥ 長南町立長南中学校
- ⑦ Care House INO (けあ はうす いの)
- ⑧ House in Sakura (はうす いん さくら)



★は1～15回の建築文化賞受賞作品

### 建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	20
習志野市	1
八千代市	2
市原市	3
市川市	3
船橋市	5
松戸市	3
野田市	2
柏市	2
流山市	1
鎌ヶ谷市	1
浦安市	3
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	2
印西市	3
白井市	1
栄町	1
本埜村	2
香取市	4
東金市	3
大網白里町	1
大多喜町	2
いすみ市	1
鴨川市	3
南房総市	3
館山市	1
鋸南町	1
木更津市	3
君津市	1

計 80

**お問い合わせ先**

**千葉県県土整備部建築指導課**

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1  
TEL.043(223)3181 FAX.043(225)0913

**社団法人 千葉県建築士会**

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5  
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101